

肉用牛の飼養管理技術の改善及び低コスト化の試み

農食環境学群 / 循環農学類 / 家畜繁殖学研究室

堂地 修

[Osamu Dochi] 教授 [獣医学博士]

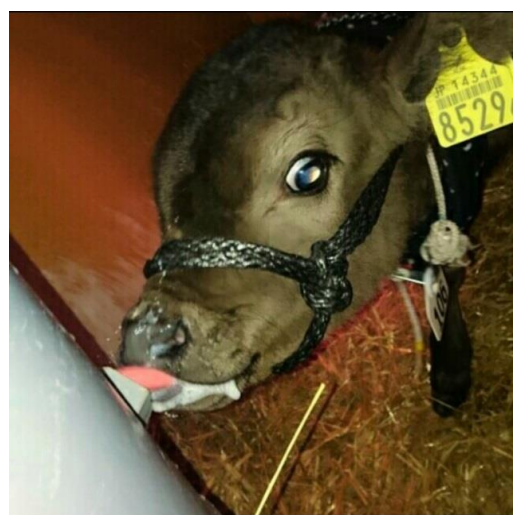
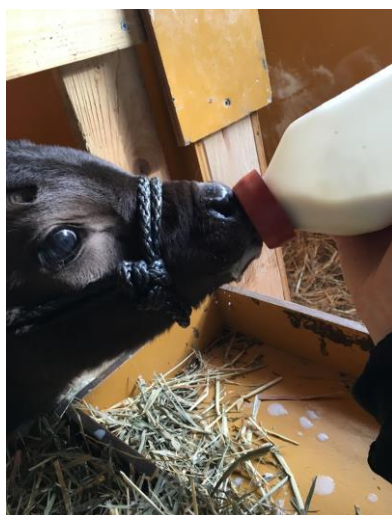


● 研究の概要

近い将来予想される肉牛経営環境の変化を想定した肉牛の生産効率を高めるために、新しい考えで哺育・育成技術の改善および食品加工副産物等を飼料として活用した低コスト肥育について検討している。

● 研究の内容・特徴

子牛生産、哺育・育成、育種・繁殖、肥育まで一貫した実学的研究を基本として、近い将来、厳しい国際環境に曝される肉牛経営を想定した技術開発を目指している。特に、黒毛和種子牛の人工哺乳法の改善と超早期からの高栄養な粗飼料給与の効果調べている。代用乳を生後35日齢頃までに80まで増やし、60日齢までその哺乳量を維持し、その後哺乳量を漸減しながら粗飼料の摂取量を最大限に上げながら育成飼料へ切り替えをスムーズに行い、市場評価、繁殖機能の発現、肥育成績に与える影響について検討している。また、穀物飼料を主成分とする代用乳のほとんどを高栄養の粗飼料に代えて給与し、発育に及ぼす影響を検討している。この研究は穀物飼料を高栄養価の粗飼料に代替し、より丈夫な胃を早期に形成し、粗飼料利用性の高い子牛生産技術を目指している。さらに、自給粗飼料と食品加工副産物を活用した低コスト肥育技術の構築に取り組んでいる。



● 用途・応用例

- ・和牛子牛の発育促進による市場評価の向上
- ・低コスト肥育法による高品質牛肉の生産
- ・
- ・
- ・
- ・

● アピールポイント

実学的研究に基づいて実施している。生産現場への技術普及を想定した研究である。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称：

特許番号：

● 研究室のホームページ